

たけら

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 690

4

April 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



菜の花 ~大阪湾を望む~ (淡路市)

「知事エッセー」から ~"瀬戸内海の再生"について~ ワシントン州クイーン・プリンセスが来訪

《今月の海上安全標語》 ~着けてください!~

JF兵庫漁連の開発した浮力合羽。法定救命具ではありません。

でも、十分な浮力を備えていますので是非どうぞ! 動きやすいよう工夫してあります!!

つけてみて…「結構ええやん!」^{ふりよく} ^{かっぱ}浮力合羽 では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ようこそ」とは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるときの方角として使われる。

漁家経営の明日へ向かって

兵庫県漁業信用基金協会 参事 松野 肇



私は、明石市内の農業と瓦職工を主とした村、農業と造り酒屋を主とした村、農業・漁業と商売人を主とした村、農業と造り酒屋を主とした村の4ヶ村を中心として成り立った地区の、小さな港があり、「帆屋」、「桶屋」、「布屋」、「竹屋」、「指物屋」「門前屋」などの屋号も残る環境の中で育ちました。

その後、縁があり現在の仕事に従事することとなり、本号発行時には職に就いてから37年目に入りますので、その間を振り返ってみました。

就職した当時は、瀬戸内の富栄養化を主因とした赤潮によるハマチ養殖と石油危機と資源変動による沖合漁業の整理的な後ろ向きな仕事が10年以上続き、その傷は代位弁済後の未回収債権として未だに残っています。

その後は比較的穏やかに推移しましたが、平成20年の貨物船沈没事故、平成21年、22年に国の緊急経済対策に呼応した大量の保証引受を行い、既にその一部が返済不能に陥って代位弁済を実施し、また、多くの代位弁済準備金を抱え込む状況に至っています。

経営困難時の金融による対応策の効果は、医療に例えれば一時的に痛みを和らげる対症療法に止まり、経営再建を果たすには本人の強い意志と実行力に加え、原因療法としてそれを支援する強力な施策が必要なのは自明です。

昨今は景気回復の兆しがようやく見え始めており、今後魚価が回復し、燃油問題を抱えつつも漁家経営が改善されるであろうとの期待をもって、日々の業務を行っています。

なお、本協会の立脚する保証制度は、水産システムを中心とした漁業資金貸付の安全性を担保するために、国の施策に基づいて作られた制度です。漁業金融を取り巻く環境は、年ごとに厳しさと複雑さを増していますが、系統金融が、揺るぎない安定した制度であることをご理解願います。

CONTENTS

No.690 April. 2014

- 2 ようこそ
- 3 JF・JAグループ兵庫各団体トップと兵庫県知事との意見交換会を開催
- 4 「知事エッセー」から“瀬戸内海の再生”について
- 5 海難事故をなくそう
- 6 山田JF兵庫漁連会長が疑問投げ掛け
- 7 兵庫JCC協同組合研究・交流会
イカナゴのくぎ煮コンテスト開催
- 8 但馬地区ズワイガニ漁終了
大輪田塾修了生が青森県で講演しました
- 9 ワシントン州日系クイーン・プリンセスが来訪
- 11 関西学院大学と摂津播磨地区漁協青壮年部連合会との交流について(続編)
- 13 県民局組織の再編のお知らせ
- 14 兵庫県農政環境部 農林水産局 水産課 & 漁港課 配席図
- 15 “命を守る運動” 海上安全講習会
- 16 兵庫JCC通信
- 17 旬に想う
大輪田塾だより
- 18 第36回 全国海の子絵画展で県内の3作品が入賞



表紙の言葉

「菜の花 ～大阪湾を望む～」(淡路市)

淡路島では「菜の花エコプロジェクト」が行われています。休耕田を利用して菜の花を栽培することで、二酸化炭素を削減するとともに、種から油を取り販売しつつ、油を搾ったカスを肥料として活用するほか、使用後の油を回収して、バイオ・ディーゼル燃料として再利用する資源循環型社会を目指す取り組みです。

地球温暖化防止に役立てようと島内各地に植えられた菜の花は、春の訪れを告げる花として、今年もまた観光客の目を楽しませてくれています。

JF・JAグループ兵庫各団体トップと 兵庫県知事との意見交換会を開催

JF兵庫漁連

JF・JAグループは、3月13日(木)神戸市内のホテルにおいて、今後の農林水産業の振興施策に関して、井戸知事、吉本副知事を交えた懇談会を開催しました。

冒頭、JF兵庫漁連 山田 隆義会長より挨拶があり、「平成25年度補正予算によって、漁業用燃油高騰対策が事業化された。この燃油高騰対策は漁業者が大きな期待を寄せており、実施にあたっては、県水産課の一方ならぬ協力を得ており、とても心強く感謝している」と謝意を表しました。また、豊かな漁場再生の取り組みについては、「3月7日配信の『知事エッセー』で、井戸知事は『漁獲量はピーク時の約40%、自然海岸は37%しか残っていない。特に、藻場は72%がなくなり、干潟は42%消失した。そして、ダムや河口堰によって、海への砂の流入量が減少し、二枚貝などが生息できない海域が増えたことでノリの色落ちなど深刻な事態を招いている』と、漁業者が問題視している内容を明確に捉えておられた。瀬戸内海再生への取り組みは『瀬戸内環境保全知事・市長会議をはじめ漁業団体が新立法を求めているところであり、国会でも議員グループの検討会

が始まった。ぜひ実現を期待しています」と結んでおられます。井戸知事へ感謝を申し上げるとともに、私も不返転の決意でこの問題に取り組んでいく」と述べました。

J A兵庫中央会 石田 正会長は「先月、TPP閣僚会合が開催され、重要品目は例外とするとした我が国とアメリカとの交渉は物別れになった。日本が安易な譲歩をしないよう、重要品目の例外措置を強くもめていく」とされたうえで、「県の来年度予算では、農林水産は630億円強、前年度比7.7%増で農業関連では農林水産業の競争力強化を重点に予算配分された。現在、「食と暮らしを創造するひょうごの農」を目指しているなか、J A・JFグループをはじめ県民が力をあわせ、農林水産業が豊かな暮らしを創造する社会へ、元気で安全安心な兵庫の実現を目指したい」と話され、続く、井戸知事は「昨年12月に『和食』がユネスコの世界無形文化遺産に登録され、世界的に注目されているが、我が国の食料自給率はカロリーベースで39%(平成24年度)といささか心許ない状況にあります。本県は、農林水産業の担い手が意欲と誇りを持てる環境

づくりを目指し、次の時代に向けた積極的な「攻め」の農林水産業を展開する必要がありますと考え、来年度予算において「農林水産業の競争力強化」として、①「農」イノベーションひょうご、②農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約、③次世代施設園芸モデル団地の整備、④県産極上アサリ(養殖)の生産拡大に取り組み予定。これらの施策を展開するためには、行政のみならず、生産事業者の方々の熱意ある取り組みや消費者の協力が欠くことができず、食と農を結ぶ協同組合として、地域社会に根ざした活動を展開しているJF、JAの役割は極めて重要。県産県消を意識した食生活をより一層県民に訴えるため、県、JF、JAが手を取り合っ

て進めてまいります」と挨拶をされました。出席の知事、副知事はじめ県農政環境部の幹部およびJF・JA各団体のトップがなごやかなムードの中にあつて、第4回となる懇談会の場で貴重な意見交換が出来ました。



「知事エッセー」から 瀬戸内海の再生について

3月6日（木）発行「知事エッセー」で兵庫県井戸敏三知事が、瀬戸内海の再生について日頃の想いを発信されましたのでご紹介します。

―瀬戸内海の再生―

◆瀬戸内海の魅力

今また、瀬戸内海に注目が集まっています。瀬戸内海が国立公園として指定されてから今年で80周年を迎えるのもこの一つです。この節目だけではありません。昨年はあの公害の海「瀬死の海」に対して、水質対策のため制度



（二財）兵庫県水産振興基金

化された瀬戸内海環境保全特別措置法の制定40周年でした。

もともと瀬戸内海は日本人にとって心の故郷でもあります。万葉集の額田王の歌「熱田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな」にもあるように、交流の海でもありました。しかも、風光明媚な多島海です。ドイツの地理学者で幕末に瀬戸内海を航行したりヒトホーフエンは、「瀬戸内海は地中海にも劣らず素晴らしい海だ。しかし、後世の人々の活動がこれを壊さないことを祈る」と言ったように、穏やかな海、多くの島々、美しい白砂青松などその美しさを誇っています。

◆里海

この瀬戸内海に新たな動きが始まっています。まず、瀬戸内海を「里海」として再生しようとする動きです。「里山」は、集落の近くの広葉樹林が中心の山々に人々が入り込み、薪や炭を生産し、共生をしてきました。石炭、石油という化石燃料が私たちの生活に導入されるまでは、日本国内で普通の景色でした。これと同じように「里海」

が提唱されています。つまり、人々と自然との交流を通じて生態系が維持されている関係になぞらえて、瀬戸内海のような閉鎖性海域で環境の保全を行いつつながら人々の生活が維持される相互関係を瀬戸内海で再生しようという試みです。

◆瀬戸内海の環境保全

瀬戸内海は、閉鎖性海域の環境保全では世界で有数の成績をあげている海です。あの戦後の高度成長下、水質が悪化し、瀬死の海と呼ばれ、沿岸知事・市長が立ち上がり、それが環境保全法の制定に結びつき、水質汚濁の原因となっていた工場等の発生源規制、地域全体の総量規制がとられました。同時に生活排水や都市排水対策として下水道整備が進み、瀬戸内海の窒素、リンの環境基準の達成率は平成24年で98%とほとんど全ての観測地点で、未達成はほんの数ポイントの観測地点が残るだけです。このように、一度汚染された海域で、環境基準を取り戻した海は、瀬戸内海だけとされています。あの有名なアメリカ・ワシントンDCの北側のメリーランド州のチェサピーク湾の未だ困難な状況と比較しても画期的なことです。

◆今直面している課題

しかし、今になって大きな課題に直

面しています。それは「きれいな海」は実現したけれど、「豊かな海」と「美しい海」が問題なのです。まず漁獲量の減少。漁船漁業、アサリ等の漁獲量が減少し、ノリの色落ちが頻発することにより漁獲量がピーク時の約40%にまで減少していることです。自然海岸も37%しか残っていません。

どうしてこのようになったのでしょうか。まず藻場や干潟の減少です。藻場は72%なくなってしまう。干潟も42%消失しています。第二に、海底の環境悪化です。ダムや河口堰により、海への砂の流入が減少し、二枚貝などの底生生物が息できない海域が多くなっています。また湾奥部や海底の土砂採取跡地で貧酸素水域が発生するなど、環境悪化が進んでいます。第三に、継続的な赤潮の発生です。有害プランクトン、シャットネラなどによる被害が続いています。このことは、富栄養化と栄養塩不足が同時に生じていることにもよります。特に、プランクトンが栄養分を吸収し、ノリの生息に必要な栄養塩が不足する事態が、ノリの色落ちなど深刻な事態を招いています。

第四は、海底や漂流ゴミなど海洋ゴミです。海岸に漂着したゴミは、海岸管理者が必要な措置をとることとされていますが、漂流ゴミや海底ゴミは処理責任者が明確でなく、その処理は円

滑に進んでいません。

◆瀬戸内海の再生

このような事態に対処するための取り組みが瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するための法整備を求める運動です。瀬戸内海環境保全知事・市長会議をはじめ漁業団体がこぞって新立法を求めています。平成19年には140万を超える署名を集め国会に提出しました。国会でも議員グループの検討会が活動を始められました。ぜひ実現を期待しています。

◆新しい動き

この美しい多島海である瀬戸内海に新しい動きが出てきました。瀬戸内海の島々を活用した文化展示のツアーです。直島と淡路島を結ぶクルーズ船の運航も結構評判でした。周遊する観光客も増えてきています。ぜひ定着させたいものです。

◆リゾート適地 瀬戸内海

それにしても、どうして日本では本格的なリゾート地が形成されないのでしょうか。昨秋にトルコ・エーゲ海沿岸のリゾート都市マルマリスで世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス10）が開催されました。会議では、瀬戸内海を里海として再生しようとする事業の基本理念である「里海」をテー

マにセッションも開かれました。このマルマリスは、冬季は3万人程の小都市ですが、夏季など保養基地としてにぎわう時期は30万〜50万人の大都市となり、リゾート地として観光客が押し寄せます。会議場となったホテルもペンションが本館の周りに配置され、前は海水浴場を中心として波止場とフィッシャーマンズワフ（海市場）などが緑豊かな海岸沿いに並んでいます。このようなリゾート地が日本ではなぜ生まれませんでしょうか。

トルコの環境学者オザン先生は、「日本の人は、何も無い所でゆっくり過ごす、何もしないで一日過ごすことができないようですね」と言われていました。まさに、何か目的をもって出かけることが当たり前で、何も目的を持たずに出かけることができない性分なのかもしれません。しかし、何もしないという目的で出かけて、美しい自然の中に浸るといった目的で出かけることが私たちの生活スタイルにならないものでしょうか。成熟時代といわれ、超高齢社会といわれ、「ゆっくり」の価値が見い出されてもよいでしょう。瀬戸内海は日本のリゾートの適地でもあります。ぜひ瀬戸内海と人との交流を、里海としてつくりあげたいものです。

兵庫県知事 井戸 敏三

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着よう!

ライフジャケット非着用者の死亡率は、着用者の死亡率と比べ「2倍以上」高くなっています。

ハイブリッド型ライフジャケットは、固型式と膨張式の良いとこどり!

ハイブリッド型ライフジャケット (固型式・膨張式)

モデル：兵庫県漁業信用基金協会 大西 正也さん



～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



浮力は十分あり!

神戸海上保安部 海上保安官による実演

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部 (078-942-9272) までお問い合わせください

生物多様性を求める海に透明度議論は必要か？
安易な基準設定は漁業の崩壊を招きかねない

中央環境審ヒヤリング

山田JF兵庫漁連会長が疑問投げ掛け

3月14日、環境省・中央環境審議会の水環境部会生活環境項目環境基準専門委員会の第2回会合が東京都内で開かれ、下層溶存酸素(下層DO)や透明度の環境基準の設定が検討されました。

関係者ヒヤリングで山田隆義JF兵庫漁連会長は「豊かな海は、生物多様性に富み生産性が高い海であり、きれいな海が豊かな海とはいえない。透明度や下層DOだけではなく栄養塩類など様々な要因を考えるべき」として一方向議論にクギを刺し、「安易な基準設定は、生物多様性や漁業活動に大きな影響を及ぼす」と、狭義の環境議論に疑問を投げ掛けました。

この委員会では、下層DOは赤潮リスクや貧酸素水塊の発生に伴う斃死など突発的な影響があること、透明度は、沈水植物の光合成を促す必要最小限の光量確保が不可欠であること、を理由に環境基準の設定が検討されています。もし、この議論が、瀬戸内海の環境再生を求める漁業者の叫びへの答えというなら看過できません。瀬戸内海環境再生に向けて自民党議員連盟まで立ち上がっているこの時期に「な

ぜ今さら透明度なのか」「再生法制定でなく、環境基準の設定だけでお茶を濁すつもりか」瀬戸内海142万人署名に裏付けられた水産資源等「豊かな海」再生の願いを、水質規制・負荷削減の論理だけで片付けて良いものだろうか。

瀬戸内海は「漁業資源の宝庫であり、その恵沢を国民が等しく享受し後代に継承すべき」とは現行法にも規定されていますが、環境基準の達成が一人歩

陸から海をみるのではなく 海からの目線で水環境行政を！

戦後の日本は経済成長路線をひた走り、国際的に経済大国の地位を得ましたが、反面、臨海工業開発は海域の著しい水質汚濁を引き起こしました。現行瀬戸内法は「瀕死の海」の水質改善を目指して環境基準の達成を目標に、負荷削減で「見た目きれいな海」の実現に貢献しました。しかし、10年前頃から魚資源の減少、海苔色落ち、アサリ資源の消滅など顕著な漁業被害がほぼ全域で発生するようになりました。

きし、数次の負荷削減規制により、極度の栄養塩低下がもたらされ、生物資源に重要な「住み処」と「餌」が消滅しつつあるという現実は無視されたままです。環境省は環境基準という数値管理が環境行政の総てと認識されているのか？生物不在の海と環境保全はどう結びつくのか？現場と乖離した環境行政に意味があるのか？疑問山積です。このたびの専門委員会での議論内容や、これまでの議員連盟の会合での環境省の答弁などを仄聞する限り、環境省の傲慢さ、怠慢さしか見えてきません。不信感の募るばかりです。

我々の主張は、「更なる負荷削減を前提とした透明度と下層DOの環境基準設定は、絶対認められない。」ということにあります。

素人目にも透明度はあるものの貧栄養で無機質な水環境を実感させる、40数年前とは全く異質な海が出現したので。まさに「水清くして魚棲まず」の故事通りの漁場環境は、その後も真綿で首を絞めるが如く年々悪化し、漁業生産活動に深刻な打撃を与えています。

瀬戸内法が瀕死の海といわれた時代と、現代では、社会背景や地域環境は全く違い、国民の環境に対する意識も

広義に総合的に捉えるようになってきています。生物多様性の確保という表現も2010年に開催された生物多様性条約締約国会議(COP10)を機に一般認識され、環境議論のキーワードにもなりました。然して、「豊かな海」瀬戸内海は、まさに、生物多様性の確保や生物再生産の場の確保が主眼ですが、環境省は、何故かこの辺りの議論は避けているようです。成熟社会の今日、瀬戸内海は規制行政で水質改善のみを図る時代ではなく、水産資源等生物多様性に富んだ質の高い豊かさが実感される総合的な水環境行政が求められます。水質規制だけで生命が宿る瀬戸内海を創れないのです。(U/T)





地元産そば粉を使った「そば打ち教室」

兵庫JCC協同組合研究・交流会 ～農業をテーマに加古川で開催～

(一財)兵庫県水産振興基金

生協・J A・J F・森林組合で構成する兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)は、2008年度より「兵庫JCC協同組合研究交流会」を行っていきます。近年は協同組合の現場を見学し、生産者・消費者間の交流を深める内容の研修を行っており、6回目となる平成25年度は3月5日(水)に農業をテーマに加古川市で開催され、県内各地から農業・林業・水産業・生協等の関係者ら合わせて約20名が集まりました。はじめにJ A兵庫南かんき支店においてJ A直売所を見学し、続いて地元産ソバ粉を使ったソバ打ち教室が行われました。そば打ちでは初めて挑戦する方が多かったのですが、ツナギに山芋を入れたそばを次々に打っていき、昼食に全員で美味しく頂きました。

午後はトマトやイチゴの圃場などを見学しました。トマト・レタスの圃場では、ハウス内での水耕栽培によって新規就農者を取り組みやすくするための工夫やマニュアル化の試験が行われており、担当者との質疑応答では参加者から沢山の質問が出ていました。イチゴの圃場では、農業大学校を出て加古川市で就農した生産者から、これまでの苦労や現在の取り組みなどについて話を聞き、理解を深めました。



イチゴ生産者の話を聞きました



水や肥料の量もコンピューターで管理される



いかなごのくぎ煮を炊く文化が伝えられました!

SEAT CLUB(シートクラブ)では、今後も兵庫の魚の美味しさや、調理の楽しさを消費者へPRし、魚食文化や兵庫の魚の消費を拡大していく取り組みを企画していきます。

3月8日(土)兵庫県水産会館4階にて、日本郵便株式会社近畿支社主催J F兵庫漁連、兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会の共催による、第1回「親子でイカナゴのくぎ煮コンテスト」が開催されました。これは兵庫県発祥といわれる、イカナゴのくぎ煮を炊く家庭が減少していることから、今回のコンテストを通して、親子間での「魚食文化の継承」を図る目的で実施されたものです。当日は、書類による一次審査を通過した5才から82歳までの親子や祖母と孫のペア16組が水産会館に集まり、自慢のレシピでイカナゴのくぎ煮を調理し、審査が行われました。

審査員は日本郵便(株)近畿支社 郵便事業本部長と各地郵便局長13名の他、落語家の桂きん太郎氏、フードコーディネーター山外智子氏、兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会 山口徹夫委員(J F兵庫漁連専務理事)の計16名。ルールは、イカナゴ1kgを1時間以内に調理するというもので、参加者からは生姜や柚子、金柑、ナッツ等を入れるといった各家庭の炊き方を、母親や祖母が子どもや孫に教えつつオリジナリティー溢れるくぎ煮を炊き上げていました。最後に審査結果が発表され、USJのチケットや、プロ野球の観戦チケットの他、兵庫県産の水産加工品等の豪華賞品が贈られました。

イカナゴのくぎ煮コンテスト開催 くぎ煮文化の継承を目指して

J F兵庫漁連



▶審査を終えての記念撮影

但馬地区ズワイガニ漁終了

JF兵庫漁連 但馬支所

但馬地区の冬の主幹漁業であるズワイガニ漁が3月20日（木）で漁期を終え、最終セリが21日（金）に行われました。

今漁期は資源保護のため、メスガニ（セコガニ）は12月末まで、ミズガニは1月20日〜2月末までと、前年より10日間の漁期短縮が行われました。

今漁期の総漁獲量は、1151トン（前年比93・4%）で、オスガニ580トン（前年比125・7%）、メスガニ407トン（68・5%）、ミズガニ（若松葉ガニ）164トン（93・1%）となりましたが、総漁獲金額は、オスガニ（松葉ガニ）の好調やセコガニの単価が高かったことなどから34億3200万円（前年比109・7%）となりました。



大輪田塾修了生が青森県で講演しました

「浜のマネージャー塾」卒塾生にエール

（二財）兵庫県水産振興基金

青森県では人財啓発事業として、浜の将来を担い、経営改善に取り組み漁業者や漁協職員を塾生とした「浜のマネージャー塾」（研修期間3年・塾生21名）を開催しています。その塾の事務局である青森県担当者から大輪田塾事務局へ「初めて送り出す塾生に対して、大輪田塾生が修了後、どのような思いを持ち、活動しているのか話してほしい」と講演依頼されたことを受け、JF明石浦 戒本 裕明組合長（1期生）、JF浜坂 熊本 直和総務課長（5期生）と事務局が青森市内の会場に出かけ講演しました。

3月24日（月）に行われた閉講式前の記念講演で、大輪田塾事務局が塾の概要について説明した後、戒本組合長が「漁業は変えられる。私たちの役割」と題した講演を行いました。これまでの活動や、組合長となってからのエピソード、大輪田塾で学んだことなど、ユーモアを交えた話し方で、会場は和やかな雰囲気になりました。塾生の皆さんは何度もメモを取って熱心に聞き入っていました。最後には「これまでの活動の中で、どうしようかと悩むこともあったが、やらなアカン。ことは勇気をもって実行に移すことが大事。そうすれば誰かが背中を押してくれる

ることもある」と締めくくられ、会場からは大きな拍手が上がりました。

次に、熊本課長が「卒塾される皆さんへ「浜坂漁協の取り組みと私の塾経験から」とした講演を行い、組合業務で携わったホテルイカ「浜ほたる」の生鮮出荷の取り組みなどを紹介するなかで「塾で得た人との繋がりは私の財産。皆さんもマネージャー塾で得た繋がりを大事にすれば、世界が広がっていくと思います」と、卒塾される皆さんにエールを送りました。

このあと、卒塾式に臨まれた塾生の皆さんは、青森県三村 申吾知事から一人ずつ、激励のメッセージとともに修了証書を受け取り卒塾されました。式典後の懇親会で講師の二人の周りに卒塾生が集まり、漁業や業務について大いに盛り上がる姿をみて、事務局としては、こちらの熱意は伝わったのかなと安堵するとともに、今回得たつながりから、これからも同じ漁業者塾同士の交流を続けたいと思います。



戒本組合長は甲子園出場のエピソードも紹介された



熊本課長は「浜ほたる」の取り組みを紹介



三村知事より修了証書が手渡されました



ワシントン州日系クイーン・プリンセスが来訪

～水産会館や漁協などで交流を図る～

(一財)兵庫県水産振興基金



水産会館玄関で記念撮影

平成25年度は兵庫県と米国ワシントン州との友好提携50周年の節目の年であり、昨年8月にはワシントン州において記念行事が盛大に行われました。(既報・拓水2013年11月号 No.685) その際、交流のあった日系クイーン・プリンセスたち5名が、日系クイーンズスカラシップ協会テリー・ナカノ理事長とともに3月23日から30日まで来県され、兵庫県井戸敏三知事を表敬訪問するなど県内各地で友好親善・交流促進に努められました。27日にはJF兵庫漁連 山田隆義会長を表敬訪問するとともに、県内の漁業施設やJFを視察し、訪問先で交流を深めました。



兵庫のりを試食しました

27日の朝、水産会館正面玄関にて、各系統団体職員が拍手で迎えるなか到着したクイーンらは、山田会長へ表敬訪問を行い、山田会長は「今日の視察では、漁業の文化に触れ、豊かな海の恵みをしっかり記憶して頂きたい」と挨拶されました。記念品の贈呈などを行った後、一行はJF兵庫漁連のり流通センターを訪問し、乾のり合同検査の見学や、試食などをし、「兵庫のり」について学びました。

その後、JF室津を訪れ、中川照央組合長、本多春代女性部長から歓迎を受け、カキ漁場を視察しました。昼食には室津産のカキが出され、クイーンたちは「アメリカのカキより



JF室津では中川組合長からカキ養殖について説明を受けました



乾のり合同検査の見学の様子

ずっと大きくて美味しい」と驚いた様子でした。
次に、南あわじ市福良まで移動し、淡路人形浄瑠璃を見学するため淡路人



「3年とらふぐ」を食べて前田組合長夫妻との記念撮影



人形と一緒に(淡路人形座)

形座に立ち寄り、日本の伝統文化に触れた後、「JF福良前田 若男組合長から「淡路島3年とらふぐ」の説明を受ける」とともに、フグ料理を堪能しました。

丸一日がかりの視察でしたが、最後まで笑顔で楽しんで貰えたようでした。最後に、クイーンらが神戸を発つ前日、国際交流協会の担当者が「今回の訪問で一番印象に残ったことは？」と質問したところ、「漁業関係の皆さんから大変温かい歓迎と美味しい料



クイーン・プリンセスの皆さん(左から)
Ms.Asbasea Mckenna(プリンセス)、Ms.Christine Ito(クイーン)、中川組合長、Mr.Terry Nakano(ワシントン州日系クイーンズカラーシップ協会理事長)、Ms.Kristi Nakata(ファーストプリンセス)、Ms.Izumi Hansen(プリンセス)、Ms.Christina Sarah Johnston(通訳)

理を頂いて嬉しかった、そして「米国に帰ったら、兵庫の水産物の素晴らしさをしっかり伝えたい」との答えがあったようです。この交流をとおして、本県水産業の発展・振興につながっていくことを期待します。

関西学院大学と摂津播磨地区漁協 青壮年部連合会との交流について(続編)

昨年6月に摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(大角 生馬会長…JF坊勢)が行った「平成25年度

関西学院大学消費流通検討会(拓水2013・7月号にて既報)について、当基金へ関西学院大学学部 田和 正孝教授より成果報告が届きました。

拓水では先月号(№689)に続いて、今月は参加した学生のコメントを紹介します。

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

兵庫県漁業者と

地理学地域文化学専修学生との交流活動(成果報告)

VOL.2

関西学院大学文学部 田和 正孝

2. 学生の経験

交流会を終えて、学生は多くのことを体験できた。以下では、学生は今回の交流会に対してどのような感想を

(一財)兵庫県水産振興基金

もったのか、以下では学生から寄せられたコメントを紹介する。

「コメント1」

兵庫県水産業者との交流会では、漁師を育てる学校(大輪田塾)があることに驚いた。自身が持っていたイメー



ジでは、漁師は先祖代々漁師の家庭であり、技術は自分の目で見て盗んだりするものだと思っていた。これから先、しっかりとした漁ができるように漁師を育てるということは素晴らしい試みだと考える。昼食にいただいたエビは、スーパーの食材とは比べ物にならない美味しさで、エビの本来の味を知ることができた。新鮮なものを新鮮なうちに食べられることがどれほど味に影響してくるのかわかることができた。この味をいろいろな人に知ってもらうためには、漁業者だけでなく、我々が口コミでその素晴らしさを広めることも必要になるかもしれない。

「コメント2」

食事会のみ参加した。明石ダコ・シラス・焼きアナゴ・エビ・イカナゴ・兵庫ノリなどどれもとても美味しく、兵庫県の水産物の素晴らしさを再発見できた。スーパーで兵庫県産のものを手に取ることも多くなり、生産者の顔が見える商品は強いと感じる。それはもちろん、水産業者の方々が交流会時に、生き活きとお仕事のことを話して下さったからであると思います。また、スーツでさわやかな感じがとても意外であった。普段水産物はたくさん食べているのに、生産地や生産者のことを



全く知らないことを考えさせられた。今回の交流会は田和先生の繋がりがあってとのことであり、私たちは地理学地域文化学を学んでいるので、その点で兵庫の水産業についてたいへん興味を持った。一消費者としても、兵庫の水産物に魅力を感じた。図書館には明石ダコの漁具についての文献が残っているということで、そういった歴史や物語で、さらに商品に付加価値をつけることができるのではないかと考える。



【コメント3】

漁業者の皆さんから直接、話を聞くという機会は普段無いことで、とても貴重な体験ができた。皆さんは本当に明るく元気があり、これこそが「海の男だ」という印象を受けた。話の中では漁業が今抱えている問題も聞く事ができたし、話の至るところで漁業者同士の密な仲間関係がしっかりと構築されていることを伺い知ることもできた。最近では燃油高騰という深刻な問題などがあるが、私たち消費者の為にこの危機を上手く乗り越え、これか

らも新鮮で日本の質の高い魚介類を提供していつて欲しいと心から願う。

明石の漁師さんからお話を伺い、海水の透明度が上がるといことは栄養分が少ないことを意味し、海苔の色落ちなどを引き起こすことや、後継者問題とそれにつながる活動など、普段スーパーや鮮魚店で魚を買っているだけの生活にある者にとつて、様々な課題について伺うことができた。私たちがそれぞれにも関わってくる問題であることを実感した。

昼食時には瀬戸内海の水産物をこちそうになり、やはりもっとも魚に近くにいる人こそがその時期のもっともおいしいものやその食べ方を知っていることがわかった。

【コメント4】

大角さんや周りの皆さんの元気のよさに圧倒されましたが、講義を受けて漁業に対するイメージが変わった。大角さんが、「漁師でも船酔いする」と発言されたことが印象に残っている。魚のことを知ってもらうために、幼稚園や小学校にも足を運ぶ取り組みを続けていらっしやることも初めて知った。魚に対して生臭く、食べにくいと少しマイナスイメージを持っていたが、昼食のイカナゴ、エビ、タコがす

ごくおいしかったので、これについてもこれまで自身が持っていたイメージが大きく変わった。魚は食わず嫌いという子どもも多いと思うので試食を通して、より多くの世代に親しまれる食になることを期待する。

【コメント5】

漁業協同組合の皆さんにお話をうかがって、漁業の現状や厳しさなどを改めて知った。収入が不安定など、漁業のマイナス部分しか若い世代の人たちは知らないと思う。そのため後継者育成に繋がらない。今後もっとこのような交流会を通じて、漁業の良さを伝えていくべきではないだろうか。

【コメント6】

昼ごはんはすごくおいしかった、普段あんなにいろんな魚介類を一度に食べることがないのでとてもよい機会になった。

3. おわりに

漁業者と学生の交流によって、学生にとっては普段ほとんど機会がない対話の場を提供いただけたことに感謝したい。このような交流は、2013

年10月に実施した本学生協祭への兵庫県漁業組合連合会からの出店、2014年1月の生協食堂での室津ガキを用いた特別メニュー「Love Sea井」の朝食へとつながった。一般学生への影響も大きかった。報告者自身、これを機に多様で豊かな兵庫県漁業について学びたいと考えている。県内の多くの漁業者の皆様、各地の漁業協同組合、県水産課、漁業関連諸団体の皆様には今後ともよろしくご指導をお願いし、報告書とさせていただきます。



県民局組織の再編のお知らせ

兵庫県では、第3次行革プランに基づき、簡素で効率的な組織体制を徹底するとともに、効果的・効率的な県民サービスを提供するため、平成26年4月に県民局の組織を再編します。

県民センターへの改組

県では、県民の皆さんに身近なところで総合的な施策を推進し、現地解決型の行政を展開するため、保健・医療・福祉、産業振興、社会基盤整備などの分野の業務を幅広く所管する、総合事務所としての県民局を県下10地域に設置しています。

このうち、政令市又は中核市を所管区域とする神戸県民局、阪神南県民局、中播磨県民局は、他の7県民局に比べて市に多くの権限が移譲されており、総合事務所としての役割や機能が異なることから、「県民センター」に名称を変更し、市との連携のもと、より効果的・効率的な県民サービスの提供をめざします。

現行	再編後
神戸県民局	神戸県民センター
阪神南県民局	阪神南県民センター
中播磨県民局	中播磨県民センター

その他の県民局の名称は変更しませんが、所管区域内の市町との関係や業務量に応じて、組織体制の見直しを行います。

組織再編後もこれまでどおり、現在の事務所の所在地で業務を実施します。[事務所の一部の業務については、統合再編を行います。]

事務所の見直し

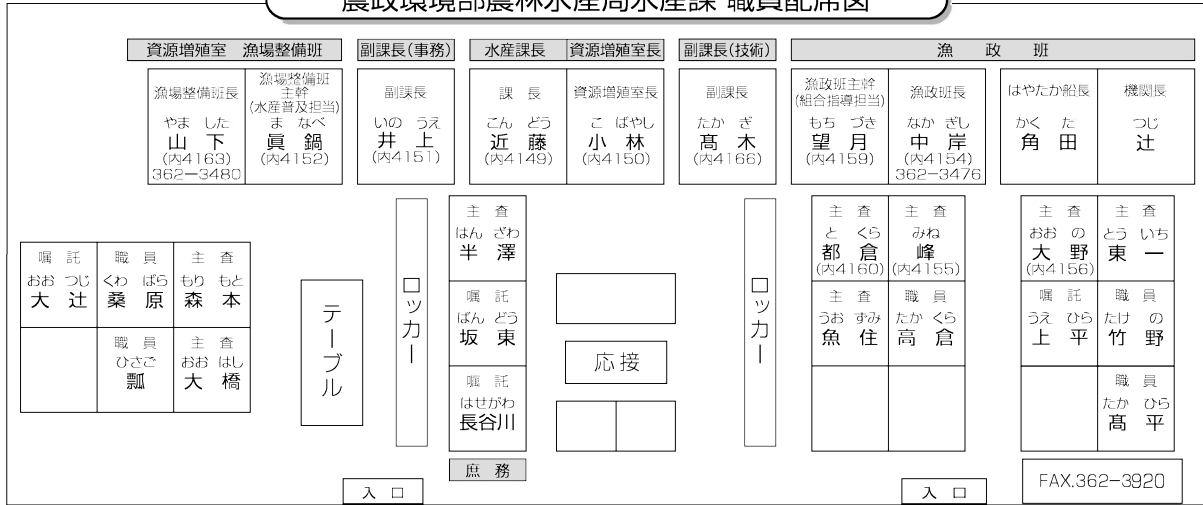
県民局事務所の一部の業務について統合再編を行い、業務の専門性の向上や機動力の強化を図ります。

業務	現行組織名（～26年3月）	再編後の組織名（26年4月～）
農林水産 (水産・漁港)	東播磨県民局 加古川農林水産振興事務所 水産漁港課 神戸県民局 神戸農林水産振興事務所 農水産課	東播磨県民局 加古川農林水産振興事務所 水産漁港課 〒675-8566 加古川市加古川町寺家町天神木97-1 (加古川総合庁舎)
	中播磨県民局 姫路農林水産振興事務所 水産課、漁港課 西播磨県民局 光都農林水産振興事務所 水産漁港課	中播磨県民センター 姫路農林水産振興事務所 水産課、漁港課 〒670-0947 姫路市北条1-98 (姫路総合庁舎)

【ご注意】 神戸農林水産振興事務所の農水産課では、水産業務以外の業務は引き続き実施します。
(神戸農林振興事務所農政振興課に名称を変更します。)

兵庫県農政環境部 農林水産局 水産課 & 漁港課 配席図

農政環境部農林水産局水産課 職員配席図



漁場整備班

- ①漁場整備開発事業に関する事
- ②保護水面の管理に関する事
- ③漁場の保全事業に関する事
- ④漁場環境の保全に関する事
- ⑤海洋開発事業と漁業の調整に関する事
- ⑥水産業の国際交流に関する事
- ⑦水産物の安全確保に関する事

漁場整備班(水産普及担当)

- ①沿岸漁業等に関する調査研究及び普及指導員の資質向上に関する事
- ②水産業改良普及に関する事
- ③水産物の加工流通に関する事
- ④栽培漁業の推進に関する事
- ⑤養殖業の振興に関する事
- ⑥水産新分野の開発に関する事
- ⑦(公財)ひょうご豊かな海づくり協会に関する事
- ⑧水産関係統計に関する事

漁政班(庶務)

- ①課業務の総合調整及び庶務に関する事
- ②総務課との連絡に関する事
- ③文書及び公印の管守に関する事
- ④但馬水産事務所との連絡調整に関する事
- ⑤課内各係に属さないこと

漁政班(組合指導担当)

- ①水産業協同組合の指導、監督に関する事
- ②漁業協同組合の経営基盤強化に関する事
- ③漁業協同組合の合併推進に関する事
- ④水産制度金融、漁業共済、漁業信用保証に関する事
- ⑤産地卸売市場に関する事
- ⑥(財)兵庫県水産振興基金に関する事

漁政班

- ①水産行政の企画立案及び調整に関する事
- ②漁場計画立案及び漁業の免許登録に関する事
- ③漁業の許可及び漁業調整に関する事
- ④水産資源管理対策に関する事
- ⑤内水面漁業の振興に関する事
- ⑥海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に関する事
- ⑦漁船の建造等の許可、登録、及び積量の測定に関する事
- ⑧漁業取締りに関する事
- ⑨漁船損害等補償法、遊漁船業、観光漁業、漁業無線局に関する事
- ⑩災害による被害等情報に関する事

漁港課 職員配席図



漁港整備班

- ①漁港及び漁港海岸の整備計画及び調査に関する事。
- ②漁港施設用地の計画及び調査に関する事。
- ③海岸統計に関する事。
- ④県管理の漁港及び漁港海岸事業の実施に関する事。
- ⑤市町管理の漁港及び漁港海岸事業の指導監督に関する事。
- ⑥漁港の災害復旧に関する事。
- ⑦漁業構造改善事業に関する事。
- ⑧水産物の流通加工対策に関する事。
- ⑨共同利用施設の管理運営に関する事。
- ⑩共同利用施設の災害復旧に関する事。
- ⑪漁港漁村における地域活性化施策推進に関する事。
- ⑫漁港漁勢調査に関する事。

漁港管理班

- ①漁港、漁港海岸利用の占使用事務に関する事。
- ②漁港及び海岸保全区域における国有財産に関する事。
- ③県営漁港地帯の取得、管理及び処分に関する事。
- ④漁港及び漁港海岸の指定及び管理に関する事。
- ⑤漁港及び漁港海岸の事業事務に関する事。
- ⑥プレジャーボート対策の総合調整に関する事。
- ⑦文書及び公印の管守に関する事。
- ⑧課内各係に属さないこと。

“命を守る運動” 海上安全講習会

～海難防止講習会と ジャンボフェリー見学～

JF・系統団体が各地で開催している「命を守る運動 海上安全講習会」。
2月、3月に行われました内容についてお伝えします。



普段の操業における危険を確認できた
久宗教授の講義



「漁業カイゼン講習会」の様子

ケットの役割や普段のメンテナンスについて紹介されました。また一般社団法人 全国漁業就業確保育成センターが実施する「漁業カイゼン講習会」も併せて行われました。

次に、久宗教授から「安全な労働環境の形成と労働災害の減少を目指して」と題した、自分の船に潜んでいる労働環境の危険性について講演があり、普段の操業について再確認できる内容となりました。



海上安全講習会

2月4日（火）、高砂市青年の家において高砂市漁業組合連合会（松本力会長・JF高砂）主催の海上安全講習会が開催されました。

この講習会は、毎年この時期に開催されており、今年は、加古川海上保安署の保安官並びに公立大学法人高崎経済大学 久宗 周二教授が講師に迎えられました。

加古川海上保安署保安官は、最近の事故事例をもとに船舶交通の安全に関する講演のほか、ライフジャケットの役割や普段のメンテナンスについて紹介されました。また一般社団法人 全国漁業就業確保育成センターが実施する「漁業カイゼン講習会」も併せて行われました。



大型船との事故は、その特性を知ること回避できます

航行中に運航会社関係者から「フェリーは船橋の位置が最前部にあり、船橋が後部にあるタンカーやコンテナ船等に比べ視界は良いものの、それでも、前方50メートルは死界に入る」や、「大型船が狭水域に入るときは数キロ手前で既に進路を決め、船を進めている」等の説明がありました。

一方、漁船は入網している時、運動性能が制限されるため、自船の存在を灯火等で知らせることや、数分後、数十分後の双方の動きに注意し操業する事が重要である等、参加者との意見や情報が交換されました。

3月20日（木）、3回目となる大型船への乗船研修会が、神戸と高松を結ぶ株ジャンボフェリー所有の「りつりん2」船内で開催されました。

今回は大型船の操船の難しさをさらに体験するため、イカナゴ漁の時期に合わせて開催されました。早朝、神戸港を出港した船は、操業する船曳網漁船を回避しつつ、雨により視界が制限された中で航行し、海峡付近での操船の難しさを体験することが出来ました。



ジャンボフェリーからの視界や動力性能を体験

講習会開催についてのお問い合わせは、JF兵庫漁連指導部（代表）まで TEL 078-940-8013

「ふるさとの食 につぼんの食」 全国フェスティバルへ出展

JAグループ兵庫は、3月8日(土)・9日(日)に、NHK放送センター(東京都渋谷区)で開催された「ふるさとの食につぼんの食」全国フェスティバルに出展しました。

このフェスティバルは、消費者や生産者との交流を通じて「ふるさとの食」「日本の食」の魅力や素晴らしさを紹介することを目的としており、JAグループ兵庫は「みんなのよい食プロジェクト」の一環として参加し、5JAから11の農産物・農産加工品の販売促進を行いました。

消費者からは「今年もコウノトリ育むお米を使ったおにぎりを買いに来た」、「東京では珍しい商品でとてもおいしい」などの意見が聞かれ、JAグループ兵庫の販売促進につながりました。



東京の消費者への販売促進



販売物一覧

地方消費者グループ・フォーラム in 奈良 「広げよう連携の輪! つくろう消費者 市民社会!」に参加しました

2月12日(水)、奈良県文化会館にて「地方消費者グループ・フォーラム in 奈良~広げよう連携の輪! つくろう消費者市民社会!~」が開催され、兵庫県生協連では、今年度「消費者問題」について取り組んでいる「生活問題研究会」メンバーが初めて参加しました。今年で4回目となるこのフォーラムは、地域で消費者問題に携わる消費者団体や行政が相互に情報交換を行うことで連携を深め、地域での活動につながることを目的に開催され170人が集いました。18団体が参加した壁新聞交流会では、各団体・行政の活動内容の展示が行われ、神戸市市民参画推進局市民生活部消費生活課からは「2014神戸市消費者教育推進プラン」の紹介がありました。開会の挨拶では消費者庁 阿南 久 長官が消費者団体のさらなる活躍への思いを述べられ、続いて壁新聞交流会出展11団体による「壁新聞リレー紹介」では、活動報告や寸劇が行われました。生活協同組合コープこうべ組合員活動部 江見 淳 統括部長からは「ひょうご暮らしの親子塾」「ひょうご暮らしの大学」について、地域の活動リーダーの養成や、地域とともに子どもたちを育む取り組みなどが紹介されました。その後、「NPOと行政の連携」「事業者とともにすすめる消費者教育」「学生の消費者力アップ」の3つのテーマで分科会が行われ、生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合からは、兵庫県立大学 村上 りさ 氏が「学生の消費者力アップ~ひょうごの消費者市民社会を大学生が創造する取り組み」と題して講演。消費者市民社会の実現に向けて大学生と社会人との連携を呼びかけ、参加者からも賛同の声が多く寄せられました。



◀ 講評される消費者庁
阿南長官



分科会では学生の消費者力アップについて報告



旬に想う

写真と文
遊 方子

読み書き算盤

◆落語『代書屋』は無学な男の履歴書を捲えるため代書屋が難儀する話で、無筆ゆえのお笑いである。無学無筆ゆえに引き起こす滑稽話は多いが、寄席でこうした話が演じられるのは、日本人に無筆・無学の人がいないという証しだと思ふ。義務教育の施策のお陰と言えらる。我が国の国語は、半分は中国から伝来の漢字を使っているが、中国では使われない訓読みで殆どを読み下し、完璧に日本に定着させており、「漢字」というより「国字」と呼ぶのがびつたりのようにも思ふ。字が読める幸せは、何にも増して喜ぶべきことだと思つている。

◆書き取りで難儀なのは、画数の多い複雑過ぎる字である。『和氣藹藹』や『醒醒』『憂鬱』など、字画が多い「鬱」などは見るだけでも憂鬱になる。昭和二十三年八月「漢字の読み書き能力調査」が実施された。これは敗戦により乗り込んで来たGHQの命令で、民間情報教育局(CIE)が行つたが、日本語の表記を漢字仮名書きからローマ字へ変換させようという腹積もりだつたようだ。十五歳から六十四歳までの男女一万六千八百十四名が、無作為抽出法で選ばれ無記名の試験方式で行われた。結果、読めず書けずの人は、僅か二・二%に過ぎず、CIEは不満足でデータ改竄を要求したと当時の関係者が回顧している。漢字は廃止されず、漢字仮名混じり文が正式な国語となる。この識字能力は大いに自慢できる。

◆『滑石方なれば蜜燐は長かるべし、水は黄銅にして金の如し』呪文のようなが、飲物の硬度を小さい順から並べた歌である。最後の金は金剛石(ダイヤモンド)の事。当時の理科の先生が、覚えなくて良いといわれた通り、何ら役立たないが『壽限無』の名前同様、何故か忘れられない。字の覚え方で「爪にツメ無し瓜にツメあり」や「メモヨ・カムリ子(學)」等、年号では「鳴くよ鶯平安京」「い国作ろう鎌倉幕府」等と、言葉に置き変えた暗記術がある。

◆算盤は小学五年から習い始め、自転車で隣町へ通つた。製紙会社の社宅の並ぶ中、駄菓子屋の奥座敷を教室に、髭の爺サマが先生だつた。同年代の十数人が長い木製の机の前に正座して教わつたが、掛け算の九九や割り算の九九を覚えさせられた。「二二天作の五二二進の一十」といった割り算九九を懸命に覚えたが、これも全く役立ってはいない。にっちもさっちもいかぬと言ふ言葉の、にっち(二進)もさっち(三進)もが、割り算九九だと先生から聞いた気がする。後年、経理の仕事をする際に算盤は役に立つたが、時代遅れの感拭えない。日常で算盤が要るのは「出納簿」記帳と年度末の「確定申告」だけである。

大輪田塾だより

水産物の集荷販売について

大輪田塾3月講座は、20日(木)に「水産物の集荷販売について」の共販に学ぶ」と題し、加古郡播磨町にあるJF兵庫漁連の流通センターにおいて行われました。

講義はまず同センターの合同検査場と倉庫を見学。県内各地から集荷された乾ノリの検査作業や、入庫から出庫までの倉庫保管について見学しました。続いて、JF兵庫漁連のり海藻事業本部高瀬 博文本部長より講義があり、ノリの歴史やのり共販の現状に加え、集荷販売におけるメリット・デメリットや今後のノリ流通のあり方等について塾生は学びました。

検査現場や倉庫を初めて見る塾生が多く、検査の流れや手法などを興味深く見ていました。ノリ繁忙期にもかかわらず高瀬本部長から、ノリについて広範囲に詳しく説明を受け、味付海苔の試食や、ノリを使った海外の商品の紹介などもあり、知見を広めることが出来ました。



ノリについて広く学ぶことが出来ました



乾のり合同検査を見学

第36回

全国海の子絵画展で

県内の3作品が入賞!

JF兵庫漁連・
JF兵庫女性連

昨年10月に決定した「ひょうご海の子絵画」受賞作品(拓水No687号:H26.1月号参照)が、JF全漁連主催「第36回全国海の子絵画展」に出品され、審査の結果、姫路市立香呂小学校5年 大谷 駿介さんが「文部科学大臣奨励賞」を、神戸市立平野中学校2年 中島 凜香さんが「NHK会長賞」を、そして、播磨町立蓮池小学校6年 佐伯 優衣さんが「農林中央金庫理事長賞」を見事に受賞しました。

今回の絵画展は、全国約25,000点(参加校約1,000校)の応募の中から、各県で選ばれた125点が全国展に出展され審査が行われました。表彰式は東京・コープビルで3月26日(水)に開催され、特別賞入賞者28人の一人ひとりに賞状が手渡されました。



文部科学大臣奨励賞
姫路市立香呂小学校5年 大谷 駿介さんの作品



NHK会長賞
神戸市立平野中学校2年 中島 凜香さんの作品



農林中央金庫理事長賞
播磨町立蓮池小学校6年 佐伯 優衣さんの作品